



対馬丸記念館と、遺族・サポーターを結ぶ、ふれあいの情報誌

対馬丸 通信

発行：(公財)対馬丸記念会
発行人：高良 政勝
編集：対馬丸記念会事務局
この冊子は、厚生労働省の予算で作成しています

Tsushima maru press

令和5年2月25日発行 第46号

特集 学童疎開体験事業

令和4年12月26日～28日
渡嘉敷村(島)にて

ひーさん、やーさん、しからーさん*を
身を持って体感してきました！

今年度からの新しい試みとして、学童疎開体験事業を行いました。この事業は、今を生きる子ども達にとって「疎開」という言葉や意味を学んでも、普段の生活の中ではなかなか実感することが難しいということに着目し、発足のきっかけとなりました。事業の対象は、那覇市内の小学校に通う5～6年生の子ども達20名。事前学習、渡嘉敷島での本研修、事後学習を含む計9日間で対馬丸事件や学童疎開の実情、沖縄戦について学びました。今回は、本研修中の様子を中心に特集でお届けします。



1. 国立沖縄青少年の家にて
2. みんな薄着で、ひーさん体験
3. やーさん体験、まだ食べ足りない……
4. グループ学習スタート！
5. やーさん体験メニューはこんなにシンプル
6. 渡嘉敷小との交流会で、スポーツリズムトレーニングを体験
7. 引率スタッフの力も借りて学習
8. 現地ガイドの案内で、集団自決跡地を訪ねる

* 沖縄方言で、ひーさん(寒い)、やーさん(ひもじい)、しからーさん(淋しい)と言う意味で、沖縄県の疎開を語る上でのキーワードです。

・名所・旧所を見学して感じたこと（グループワーク）

めぐった名所旧所の印象に残った場所を紙に書き出し
ながら、思ったことや感じたことをグループで共有し
ました。

《子ども達の感想》

「根元家の石垣はお金持ちの証拠だと初めて知った」

「渡嘉敷の小学生は阿波連ビーチから、無人島まで泳げ
ると聞いてすごいと思った」

「白玉の塔の場所は集団自決の場所よりもザワザワとし
ていた」

・昼食【やーさん体験メニュー】

（献立）サツマイモと大根の葉の雑炊、きんぴらごぼう。
午前中はたくさん動いていたためか、みんなパクパク
とお昼ご飯をたいらげ、中にはおかわりをする児童も
いました。

・映像鑑賞会（「あの日、僕らは戦場で～少年兵の告白～」

「ウミガメと少年」）

・平和学習（グループワーク）

護郷隊をテーマにしたドキュメント作品「あの日、僕
らは戦場で～少年兵の告白～」と沖縄戦により崩壊し
ていく日常が描かれたアニメーション作品「ウミガメ
と少年」を鑑賞しました。鑑賞後のグループワークでは、
「もしも自分が護郷隊に召集されたら参加するかしな
いか」「戦争で人が人でなくなるとはどういうことか」等、
4つのテーマについてグループで話し合いました。

《子どもたちの感想》

「護郷隊には参加するけ
ど、死にたくないから
戦っている途中で逃げ
ると思う」

「人が人でなくなるのは、
恐怖で余裕がなくなるか
ら。一番に自分を守ろう
と考えるから、人を思い
やることができなくなる」



・夕食【やーさん体験メニュー】

（献立）麦ごはん、大根とかぼちゃのすいとん、ふかし芋、
たくあん。

今回一番盛り上がったおかずは、大根とかぼちゃのす
いとん。すいとんがモチモチとしていて美味しいとい
う声もあれば、粉っぽさが苦手だという声も。また、
今回初めてすいとんを食べたという児童もいました。

・夜空を見る会【ひーさん体験】

疎開した当時の学童たちの気持ちに近づくため、半袖
や半ズボンの軽装に着替え、冬の夜空を観察しました。

・入浴

・家族に手紙を書こう【しからーさん体験】

那覇市にいる家族に向けて手紙を書きました。はじめ
は照れくさそうにしていた児童もいましたが、時間が
進むにつれて真剣に鉛筆を走らせていました。

・22時 就寝

12月28日（水）

・6時30分起床

・身支度、部屋と周辺の清掃

3日間お世話になった宿
泊棟を部屋割りグルー
プで協力して清掃しました。



・朝食

・清掃チェック、荷物移動

・平和について考えてみよう（グループワーク）

「いま世界で起こっていること」「どうすれば平和になる
のか」「幸せとは何か」「みんなが幸せだと感じるこ
と」の4つのテーマについて各グループで話し合い、発表し
ました。

《子どもたちの感想》

「命の尊さや戦争のむごさを知れば平和になると思う」

「問題ごとは武力じゃなくて言葉や言論で解決する」

「みんなが笑って喜んでいられることが幸せ」

「本を買ったときと読んでいる時が幸せに感じる」

・昼食【やーさん体験メニュー】

（献立）かぼちゃ入りご飯、白菜の味噌汁、白菜の香物。
本研修最後の昼食はやーさん体験メニューで締めくくり
ました。初日は不満の声もありましたが、最後ともな
ると名残惜しそうな児童もいました。

・青少年交流の家 退所

・渡嘉敷小学校にて児童と交流会

交流会では、渡嘉敷村教育委員会の與那嶺さんを中心
にスポーツリズムトレーニングを行いました。子ども達だ
けではなく、引率の大人たちも巻き込んでスポーツを楽
しみました。

・フェリーとかしきに乗船、泊港へ

帰りのフェリーでは疲れて眠ってしまった児童も多かっ
たです。また、希望する児童は甲板見学を行いました。
遠ざかる渡嘉敷島を眺めたり、波の飛沫を写真に収め
たりと思い思いに過ごしました。

・16時40分 泊港到着、解散式

泊港に到着すると、フェリー乗り場には児童の家族が集
まっており、中には家族全員で迎えにきたところもあ
りました。参加者20名の確認を終え、無事に解散式を行
いました。2日ぶりの再会に参加した児童と家族の安心
した表情が印象的でした。

・17時 現地解散



事前研修スケジュール

11月26日(土) / 対馬丸記念館1階企画展示室

- ・13時集合・スタッフ紹介・グループ分け、自己紹介・アイスブレイク
ジェスチャーゲーム、他己紹介ゲーム
- ・対馬丸について知ろう
対馬丸事件についての座学、記念館見学
- ・グループ学習
もしもタイムスリップして対馬丸に乗ることになったら乗る？乗らない？
- ・16時30分解散

12月3日(土) / 対馬丸記念館1階企画展示室

- ・13時集合・疎開について知ろう
学童疎開についての座学(疎開の経緯や当時の状況、子ども達の様子)
- ・学童疎開に関するアニメーション鑑賞・グループ学習
戦後疎開から帰ってきて家族がみんな亡くなっていたらどうする？
- ・16時30分解散

12月10日(土) / 対馬丸記念館1階企画展示室

- ・13時集合・学童疎開当時の沖縄を知ろう～色んな沖縄戦～休憩
愛楽園とハンセン病、北部疎開、離島の沖縄戦をテーマにした座学
- ・本研修に向けての確認
- ・16時30分解散

事後研修スケジュール

1月15日(土) / 那覇市牧志駅前ほしぞら公民館 第一学習室

- ・14時集合
- ・アイスブレイク
ジェスチャーゲーム
- ・グループ学習
疎開を計画してみよう
- ・発表会についての説明
- ・17時解散

1月22日(土) / 那覇市牧志駅前ほしぞら公民館 第一学習室

- ・14時集合
- ・事前学習、本研修の振り返り
- ・発表準備
作文とまとめ用紙の作成
- ・17時解散

1月29日(土) / 那覇市牧志駅前ほしぞら公民館 第一学習室

- ・13時15分集合
- ・発表前最終チェック

学童疎開体験事業学習発表会

学習発表会では、事前研修や本研修で学んだこと、戦争と平和について考えたことを作文にまとめ、個人発表をしました。ひとりひとりが一生懸命研修に向き合っていた様子がかがえました。また、作文では将来の夢に触れる児童も多く、今回の研修が子ども達にとって、平和な未来を築くための要素になればいいなと心から感じました。

- ・体験証書授与
- ・17時解散

疎開体験(本研修)スケジュール

12月26日(月)

- ・泊港(とまりん)集合、渡嘉敷島へ出発

8時15分集合。乗船前には出発式を行い、研修に関する注意点や決まりごとの確認を行いました。また、参加者の家族や外間常務理事も見送りに訪れ、20名の参加児童は元気よく出発しました。

- ・渡嘉敷島到着。国立青少年交流の家へ
- ・国立青少年交流の家にて平和学習(グループワーク)

入所式を終え、第一回の平和学習。なぜ戦争は起こってしまうのかを、年表でさかのぼりながら全員で確認しました。

- ・昼食【やーさん体験メニュー】

(献立) さつまいもご飯、大根の葉のおひたし。
当時の再現されたメニューを目の前にした参加児童たち。おかずの少なさに驚く児童、おひたしの塩辛さをご飯でごまかそうと考える児童等、その反応は様々でした。みんなしっかり完食です。

- ・現地ガイドによる講話、集団自決跡地見学

現地ガイドの米田英明さんを講師としてお招きしました。米田さんのお母さんが体験した沖縄戦のお話では、「集団自決」の悲惨さ、生き残った人々の苦しみを聞きました。また、講話の後は、青少年の家の敷地内にある、集団自決跡地で、黙とうをしました。実際に集団自決が行われた林の見学では、どの子どもも真剣に米田さんのお話を聞いていました。

- ・米田さんの話を聞いて、集団自決跡地を見学して感じたこと(グループワーク)

講話と見学を通して感じたことや考えたことをグループ内で共有し発表しました。

《子どもたちの感想》

「山の中に入ってここでたくさんの方が亡くなったとは思えなかった」

「家族同士で殺し合うことはとても悲しいと感じた」

- ・入浴、夕食～自由時間～22時就寝

12月27日(火)

- ・6時30分起床
- ・身支度、朝食
- ・渡嘉敷島の名所・旧所めぐり
【ルート】
根元家の石垣→民家の石垣→渡嘉敷神社→旧日本軍特攻秘艇壕→渡嘉敷久ビーチ→阿波連ビーチ→白玉の塔→西展望台→東展望台



1日目に引き続き、地元ガイドの米田さんのもと村内をめぐるしました。渡嘉敷島に古くからある文化財やケラマブルーの海、戦時中の戦跡や慰霊碑を見学しました。白玉の塔には、戦時中の渡嘉敷島で亡くなった人々を悼み、塔の名前の由来などの説明を聞きました。



学童疎開体験

銘苅小学校6年 桂大智

学童疎開体験で12月26日にとまりんに集まりました。まず渡嘉敷島に行く船に乗りました。小さな船で行きました。船はとてもゆれてジェットコースターみたいでした。

つぎに平和学習を受けました。平和学習では米田さんが集団自決の話をしてくださいました。米田さんの話をきいたあとに、集団自決跡地に行きました。集団自決跡地は、思っていたよりも森の中でした。集団自決では330人がなくなりました。330人のうち100人が10才以下の子どもたちでした。

次の日は、名所旧跡めぐりをしました。中でも心に残ったのは、白玉の塔です。白玉の塔では、集団自決でなくなった人をまつているところです。

学童疎開体験に参加して

城東小学校6年 上間莉優



私は、学童疎開体験事業で、いろいろなことを学びました。やーさん体験やひーさん体験、しからーさん体験の3つの話を聞き、当時の子ども達の気持ち分かりました。初日の朝は、船の大きなゆれで、45分間船酔いしました。気分が悪くなったけど、青少年自然の家に着くとテンションが上がって、少しずつ気分も良くなってきました。部屋に荷物を置いたり、新しいグループの人達とも仲良くなることができました。昼食は、疎開のご飯を初めて食べました。味がうすくて、苦くて、疎開のときは、こういうのをたくさん食べていたんだなと思います。米田さんからの集団自決の話も、もくとうも、とても勉強になりました。2日目は、名所旧跡めぐりをして、あの時のとかしきに何が起こったのか、どんな意味があるのかなどを知ることもできました。夜空を見る会、ひーさん体験では、外は寒くて、疎開をした子ども達は、これより寒い

つぎに昼食を食べました。昼食はやーさん体験であまりおいしくないごはんでした。

つぎに映画鑑賞をしました。護郷隊という、14才から17才の少年たちがやんばるのジャングルでゲリラ戦を行う部隊です。友だちが死んでも何も感じないことがわかったです。

つぎにひーさん体験で半そで半ズボンで夜の外に出ました。その時の気温は16度で疎開先の熊本は大雪で7度だったそうです。それに比べると温かいけれど当時の沖縄の人はまずしかつたから、おそらく半そで半ズボンだったのでないかと思えます。そう考えると、疎開の子どもは、とても寒かったと思います。

ぼくは、この体験を通して、平和の大切さと、渡嘉敷島で起こった集団自決、学童疎開のことを学んで戦争はあつてはいけないと思いました。

気温の中、半そで半ズボンでがんばっていたんだなと思いました。ねる時、急にお腹がすいて、とても辛かったです。当時の子ども達も、量の少ないご飯がまんしていたんだと思いました。3日間も家族に会えなくて、とてもさびしかったです。疎開体験のめあての1つである、しからーさんを体験できたかなと思います。最終日は、皆で協力して朝の清掃をしました。ピカピカになった部屋を見て心がすっきりしました。また、グループワークでは、どうすれば平和になるかとか、私の幸せ、皆の幸せを共有したり、発表をしたりしました。これをやることで、自分の考えが広がったり、友達の考えを広げてあげたりすることもできました。私がこの3日間を通して、心に強く思ったことは、「残こくで容しやない戦争を二度と起こしてはいけない」です。そのためにも、戦争のことに関心をもって学んだり、皆と仲良く過ごしたいです。この3日間の疎開体験事業の本研修、いろんな体験をして良い勉強になりました。





疎開体験を通して
いろんな思い出が.....

那覇より寒かった。那覇にもどりたいと思つた。
城北小5年 川満由真

対馬丸のことがくわしく分かつたし、印象に残つたことが、この平和学習の対馬丸の子たちが感じた痛みや苦しみが分かりました。ごはんの少なさ、家族とのお別れなどが感じて、印象に残りました。
高良小6年
メクラフレン 暁

疎開に行った時の大変さや辛さが、少し分かつたような気がしました。疎開体験では、塩辛いご飯を食べたり、寒い中生活したりと、大変だつたと思います。
垣花小6年 賀数凜空

ごはんがおいしくなかつた。
銘苅小6年 桂大智

戦争のお墓に6-5人がうまつていると分かつたから、びっくりしました。
曙小5年 山田世泳

自決などを想像して、ぞわつとした。いがいと眠れた。
真和志小5年 中島大和

ごはんの量が少なくてとてもお腹がすいたことと友達と一緒にとまつたことが印象に残つた。
城南小6年 藤彩乃

私の知らないところでの戦争が学べたり、米軍と日本軍の印象が少し変わったたりした。それに、学校で調べるよりも深く考えることができたので、楽しかったです。
城西小6年 饒平名桔梗

楽しかった。景色が良かった。寒かった。ごはんがうまかつた。
開南小6年 西田多聞

平和学習をしたり、ひーさん体験、やーさん体験、しからーさん体験をして、戦争時、疎開体験をした子どもたちがどんなにひもじく、つらい思いしていたのかを知ること

ができました。命はとても大切だなど思いました。
若狭小5年 伊波鶴佳

当時の子ども達の気持ちをj知ることが出来たり、やーさん、ひーさん、しからーさんの体験も出来てよかつた！
城東小6年 上間莉優

いきなりひんやりする寒さじやなくてゆっくり寒くなつていくからきつかつたです。
松川小5年 新里結愛

疎開体験をしてみても命は大切にしようと思ひました。これからは、命についてもつと考えようと思ひます。
城西小5年 金城知明

部屋でふとんをかぶつても寒くて歯がガタガタした...!
開南小6年 清家蒼生

食事がおいしくなかつた。
那覇小5年 富名腰怜

私は、とても思い出に残つてることがあります。それは3つの体験です。特に、しからーさん体験は、家族の大切さを味わえ、平和の大切さがわかりました。
安謝小6年 柴田玲

まずしい食事がおいしくなかつた。
真和志小5年 大田弥希

戦争を体験した子ども達の気持ちわかつた。
城西小6年 財津絆

戦争の時の食べ物や過ごし方などいろいろつらいことを経験できました。少ない量のごはんや寒い夜、さびしいなど今できていることが、あたり前ではないことを学びました。これからは、今できていることに感謝していきたいと思ひました。
若狭小5年 花城由來



集団自決された場所に行つて、うす暗かつたら怖かつただろうなと思ひ、印象に残つた。また、私も少し怖かつた。
金城小5年 上原そよ

子どもたちが元氣よく船に乗り込み、保護者や関係者たちが手を振って見送った。対馬丸事件が起きた78年前も、きっと同じような光景だったのだろう。12月26日、那覇市の泊港から高速船「マリンライナーとかしき」が出港した。行先は渡嘉敷島。那覇市内から自主応募で集まった児童20人による2泊3日の疎開体験事業の本研修が始まった。

学童疎開体験者が身をもって味わった「やーさん（ひもじい）、ひーさん（寒い）、しからーさん（さびしい）」を追体験し、戦争の愚かさや平和の尊さについて考えを深めるためだ。乗船時間は約40分。航路の波は高く、当初はしゃいでいた20人も時間の経過と共に口数が少なくなった。

渡嘉敷港に着くと、研修の会場となる国立沖縄青少年交流の家（バスで移動した。宿泊手続きを受け付けたり、研修室を備えたりする「管理研修棟」が玄関口となる。その建物は3階建て、横長の形状。「対馬丸みたいだ」。児童の1人が管理研修棟を見つめて言った。

研修では、島内のフィールドワークと座学を主に重ねた。初日と2日目、島の平和ガイド、米田

英明さん（74）を講師に、渡嘉敷島で1945年3月28日に起きた「集団自決」（強制集団死）など島の沖縄戦に関する歴史を学び、関連する戦跡を巡った。児童同士で議論を重ねていく座学では、児童らも気の緩みなどから私語も増えがちな場面もあったが、集団自決跡地などの戦跡では神妙な表情で米田さんの話に耳を

するドキュメント映像作品を鑑賞した後、「もしも自分が召集されたらどうするか」「戦死した人の遺族が訪ね、当時の状況を聞きたいとお願ひされたら、話せますか」などのテーマで、戦争に動員された立場について思いを巡らせた。

2日目の夜、父母や家族、保護者向けに手紙を書く時間もあつた。「お母さんのごはんが食べた。」「集団自決はいやだ」などと記していた。

この日夜の気温は14度ほど。児童らは防寒着を脱ぎ、半そでなどの軽装で、星空を観察した。学童疎開した児童らが78年前、九州で体感した冷たさには及ばないが、体験事業の児童からは「寒い」「早く中に入りたい」などと叫び、終了時間になると足早に建物に入った。

7回の食事中、4回は疎開時を再現したメニューだった。初日の

母親は体験を語れるようになるまで戦後約60年かかったという。母親が生き抜いたからこそ、米田さん自身が今平和について語ることができると児童らに強調し、「命（ぬち）どう宝だ。皆さんが渡嘉敷を訪れ、感じたことは大切。平和への一歩にしてほしい」と呼びかけていた。

座学では、ゲリラ戦などに動員された少年兵の「護郷隊」に関する

最終日には、座学で「世界の現状」「どうすれば平和になるのか」「幸せとは」というテーマで議論を締めくくった。戦争だけでなく、差別や地球温暖化の問題なども指摘し、命の尊さや戦争のむごさを知ることで平和にアプローチできるとした。それぞれの描く「幸せ」について、「ご飯を食べられること」「学校に行けること」「静かに眠れること」などと児童らは提案していた。

いまだ世界では紛争が絶えず、子どもが犠牲になっている。疎開体験事業を通し、20人が「平和と」をじっくり考え、自分や同じ研修仲間に関心掛け、その答えを口にした。対馬丸記念館から発信されるメッセージが世界の人々と共有され、実現されることを願っている。

◆疎開体験事業 渡嘉敷島本研修同行記 学童疎開を追体験、 やーさん、ひーさん、しからーさん 平和の尊さを実感

つしま丸児童合唱団便り

つしま丸児童合唱団の団内イベント、ハロウィンパーティー（10月29日）とクリスマスパーティー（12月17日）をしました。ハロウィンパーティーでは、旭丘公園内を使い、宝さがしゲームを行いました。宝箱を見つけた子供たちは嬉しそうな声を上げ、笑顔をを見せていました。また、中には魔女やアニメキャラクターの仮装をした団員の姿もありとても盛り上がりました。



事務局長 島袋貞治

クリスマスパーティーでは、団員みんなで協力してクリスマスツリーや部屋の飾りつけを行



いまし
た。その
後、ビン
ゴゲーム
やクリス
マスの歌
を歌った
り、温か
く賑やか
な時間を
過ごしま

した。毎年恒例となっている催し
事ですが、これも日頃から子ども
達を支えてくださる保護者の皆
さん、子ども達のことを第一に温
かく指導してくださる先生方
のおかげです。ご協力に心から感謝
いたします。

ニュースあれこれ

天皇后両陛下下沖縄訪問、 高良会長が懇談しました

10月22日、天皇后両陛下が沖
縄県を訪問されました。この訪
問は翌23日に開催された国民文
化祭の開会式に合わせたもので、
即位後初の訪問となりました。ま
た、5月に行われた沖縄復帰50周
年記念式典の関係者との懇談会
も宜野湾市内のホテルで催され
ました。懇談会では、県民代表あ

いさつを務めた高良代表理事が出
席しました。



対馬丸事件生存者 糸数裕子さん



対馬丸事
件当時、那
覇国民学校
の訓導とし
て乗船して

いた生存者・糸数裕子さんが、9
月29日ご逝去されました。生前糸
数さんは、訓導という立場であり
ながら自分ひとり生き残ったと
いう自責の念を抱えながらも、語
り部活動にご尽力いただきました。
2014年の天皇后両陛下下
ご来館時には、自身が欠席する代
わりに手編みのレースを記念会に
託しました。現在記念館では、糸
数さんの残したレースの一部を生

NHK ニュースより

沖縄県の事業の一環として 講話会が開かれました

11月22日、沖縄県が行っている沖
縄平和啓発プロジェクトの一
環として、生存者・平良啓子さん
による講話会が開かれました。ま
た、モデレーターとして南風原文
化センター館長で平良さんの娘・
平良次子さんも参加し、親子の対
話という形で行われました。対馬
丸乗船に至った経緯や、対馬丸事
件後の漂流の記憶、奄美大島宇検
村で救助された際の様子など、平
良さんの体験した等身大の語り
に、参加者ひとりひとりが、平和
を繋げるためにはどうすればい
いか深く考える時間となりました。



存者の思いを伝える資料として
展示しています。レースを通し
て、糸数さんのこれまでの苦悩や
平和への思いをこれからも紡い
ていきます。

玉城デニー知事が12月17
日、プライベートでご家族
と共に来館し、記念館を見
学しました



ちゃーがんにじゅう講座

11月5日、講師に琉球料理保
存協会理事長の安次富順子さん
をお迎えし、第42回対馬丸記念
会ちゃーがんにじゅう講座「長寿
を支えた伝統的な琉球料理は沖
縄の宝」を行いました。沖縄の
食文化や健康長寿とのつながり
についての講話では、近年の沖
縄県における食生活の傾向や家
庭でも琉球料理に触れる時間を
作ることの大切さを発信しまし
た。参加者は、配られた資料に目
を通しながらメモを取るなど、熱
心な様子で受講していました。

眞榮城さんご兄弟よりご寄
付をいただきました



1月17日、昨年6月に亡くなっ
た元学童疎開訓導・眞榮城芳子
さんのご家族より大口のご寄付
をいただきました。眞榮城さん
は昨年9月に亡くなった対馬丸
事件生存者・糸数裕子さんの実
姉でもあり、生前は記念会の活
動にも関心を寄せていたとい
います。

また、三男の修さんは記念館
建設当時の事務局長として館側
と行政、業
者間の調
整に奮闘
していた
だきまし
た。



イベント

(令和4年) □11月5日
第42回対馬丸記念会ちやーがんじゅう講座

□11月26日、12月3日、10日
学童疎開体験事業事前学習

□12月26日～28日
学童疎開体験事業渡嘉敷島本研修

(令和5年)

□1月15日、22日、29日
学童疎開体験事業後学習・学習発表会 (29日)

□令和4年12月21日、
令和5年1月25日

第39回特別展那覇秀作展

毎年恒例となっている、沖縄タイムス社主催全琉図画・作文・書道コンクール的那覇秀作展を今年度も開催しました。展示は、最優秀賞と優秀賞に選ばれた那覇市内小中学校に通う子ども達の、図画・絵画96点、作文23点、書道86点、合わせて205点の作品が展示されました。

来場者からは、「子ども達の頑張りを直接見る事ができてよかった」、「子どもと同じ学年や他の子ども達の絵がどんな感じなのかアイデアを見ることができて勉強になった」、「自分の絵を見てよかったし、来年も絵を描いて賞をとりたい」等、子どもから大人まで様々な感想をいただきました。

会期中、記念館見学者はもとより、出品の児童や保護者など、

852名の観覧がありました。



トピックス

□令和4年10月26日

第1回平和学習推進連携委員会

□令和5年2月1日

第2回平和学習推進連携委員会

対馬丸記念会で恒例の、平和学習研修会や、平和学習の成果品の展示会についてのあり方を2回にわたり協議しました。

□11月30日

対馬丸平和祈念事業協議会

内閣府、沖縄県、記念館の三者で対馬丸記念館の平和発信事業について協議しました。今年度は厚労省もオブザーバー参加いただきました。

□12月28日

小桜の塔すす払い

昨年からは始めた年末の小桜の

塔のすす払いを行いました。

那覇市による公園清掃で周辺の除草は終わっていたので、塔の清掃と階段周りの除草を行いました。



ご寄附

大口寄付(敬称略)

伊藤洋久(9月16日)

有限会社APセンター(10月31日)

有限会社外間建築設計事務所(11月10日)

糸数昌業(11月18日)

株式会社東江建設 代表取締役

東江文二(11月18日)

小波津巖(12月20日)

砂川毓雄(1月11日)

眞榮城隆、眞榮城裕、眞榮城修

(1月17日)

津波剛史(1月20日)

以上の方々より大口寄付を頂戴いたしました。

□令和4年9月1日～令和5年1月20日(順不同、敬称略)

- 浅田尚宏、安次富順子、足立理一郎、新垣君枝、新垣きよみ、新垣匡子、新垣良枝、池田幸枝、池間誠、生駒千尋、井坂猛、石川由紀、石澤正夫、石田穰一、慶子、石橋薫、百合子、伊波洋正、岩城幸栄、岩田幸代、上門根美、上野和子、内原貞子、馬上典子、浦添武子、大治正雄、大下敏哉・真木、大島明、大城達也、大槻裕治、大野裕、大嶺朝明・美智子、大山日出男、岡野洋三、小川いづみ、奥田卓、奥間敬子、嘉数希、垣花米和、我喜屋芳子、風間沢登、加藤美知子、兼元和子、株式会社金城キク建設、請外充則、亀井きよみ、岸本幸秀、北浦眞輝、宜野座久美子、宜保榮治郎、具志川喜久子、具志川朝雄、久保永子、隈元芙美子、甲野桃子、後藤顕治、後藤千恵子、小南菜月、呉屋良彦、近藤信司、近藤習子、齊藤宏子、酒井俊一、佐久本安奈、佐久本まり、佐々弘美、笹谷春乃、佐藤勝子、重田辰弥、篠田恵、柴田知博、嶋田智恵美、島袋達子、嶋袋豊治、島袋常宏・愛子、首里山川町学・京子、志良堂清毅、新日本婦人の会八千代市部かつた班、新見治、瑞慶覧涼子、鈴木房枝、砂川毓雄、住吉誠、平良啓子、高島美佐子、高良博、高良政勝、たから歯科、竹内宏之、武貞隆之、武田克彦・久美子、棚原盛春、玉城博江、玉城優江、津和崎宏児、寺岡おおり、照喜名芙美子、照屋恒、照屋保子、渡口眞常、渡口彦信、渡久山久子、渡名喜元嗣、友寄泰樹、豊坂昭弘、鳥居富美、長嶋和人、中川健二、中島さつき、中島帆乃香、中原一美、仲間初子、長嶺マサ子、仲村清、中村直子、中村祐一、中村允昭、仲本好完、中山功枝、名護淳一、名城郁子、波平まき子、西川博、西口忠、西田律子、西原幸子、西脇美保、沼口照千代、橋口泰宜、花岡麗華、羽生恵美子、春山幸子、比嘉紀美代、比嘉憲太郎、比嘉幸江、比嘉一、比嘉良子、比嘉吉道、比嘉良行、平田優子、深井哲朗、福西昭代、福本晃、藤原房子、外間公也、外間邦子、外間寛、真栄城おかり、真栄城徳秀、真栄城よしの、前田敏昭、前田正宏、真志喜保、真志取京、又吉嘉伸、又吉國雄、松井正孝、眞鍋迪恵、三浦千賀子、宮城宜子、宮城讓二、宮城壮成、宮城智恵子、宮城玲子、宮里和子、宮里八重子、宮平茂子、宮良かなえ、宮良敏子、村田哲子、村山弘行、メキユー律子、銘苅朝規・あや子、諸見康秀、山川敏江、山口亮、山里輝子、山野康一、山入端真弓、山内勝好、吉田創、与那覇寛信、琉球手まり会・宮城玲子、湧川秀子、祐一、和田みどり

以上の方々よりご寄付を頂戴いたしました。心よりお礼を申し上げます。